

「介護されるZ i Z i B a B A 擬似体験」をしました。

介護保険導入の前に、介護される側はどんな感じが知りたいと思いました。

1月10日、11日と、山中湖畔にある富士松露庵（生活リハビリ研修センター）で、各地の議員に呼びかけて、「介護をされる人の気持ちを知って、介護される時、人間は、なにを剥奪されていくか、どんな介護が必要か知る」合宿が行われました。松露庵は、紙おしめを製造販売している山田さんが、障害のあるお年寄りやその家族、ケアワーカーと一緒に宿泊して、なおかつ、介護される側にあった広いベッド、安定のよいイスや、クルマイスや、テーブルを利用して、生活ケアを体験できるためにつくった別荘です。身体の不自由な方も富士山が間近に見える露天風呂でゆっくりお風呂には入れます。



くじをひいて自分の体験する障害を決めました。私は、下半身マヒの障害を体験することになりました。私は作業衣のような上下をききました。なかにはファースナーに縫のついたつなぎを着た人もいました。次に紙おしめをつけました。紙おしめの真中に尿取りパッドをあてました。紙おしめは、大きくごわっとして、気分が悪いものです。紙おしめをすると、みじめな暗い気分になります。障害体験の6時間、トイレに行きたくならないことを祈りました。そして、布団に横たわって、両足をガムテープでぐるぐる巻きにされました。両腕を固定して下半身マヒの状態になって、布団を寒くないようにとたっぷりかけられ、一人の空間になって横たわりました。2時間たった頃、介護者が「気分はどうですか。」といて回ってきました。下半身マヒは、寝返りもできない、苦しいものでした。暑くても布団を剥がすことができません。2時から夕方6時まで、ずーっと寝かさればなし。人と話することもなく寂しい。天井と障子しか見えません。



寝たきりは、寝かされて

作られるのだと感じました。

夕食になって、食堂に行くのが特においしい。

介護食を食べました。魚もほうれん草もご飯もごちゃまぜになってミキサーでとろとろにしたものです。一つ一つの味で食べたいと思っ、吸飲みから飲むお茶は、飲んだ気持ちになりました。紙おしめのなかにおしっこをしようと努力したのですが、紙おしめにはどうしてもできませんでした。1日のうちわずかの体験ですが、いろいろ気づきました。

介護保険は、家族の介護から、社会的な介護へ進める方法ですが、介護保険で行える範囲は全体の60%程度で、残り40%は家族が担わなくてはならないのです。その部分を、住んでいる地域と家族がいっしょになって行えるようにしてほしいと思います。

地区ごとのグループホームを！



嵐山町には、現在鎌形のB Gの近くに老人福祉センターを建設する計画があります。町に1ヶ所の老人福祉センターではなく、地区毎に、散歩できる範囲に1ヶ所、ミニデイケアセンターをつくって、障害のあるお年寄りや健康なお年寄りが、お互いにお茶を飲んだり、お話したり、食事ができたりする場所のほうが、生活にあっているように思います。小さい子供達も出入りできるゆっくりと時間の流れる場所が必要なのでしょう。

気になりませんか。地域振興券の経費

嵐山町地域振興券4648人分(見込)9296万円発行に、国は9947万円を補助します。その内訳は、地域振興券に9296万円、印刷費に139、7万円、取次手数料、92、9万円、事務費補助に418、3万円です。

ところが、嵐山町の支出は、1億99万3千円です。職員の時間外手当、警備費用、保険料、地域振興券交付金など、152万3千円が赤字になります。

借金づけの日本国予算、キャッシングでお金を借りて一時的に潤う…本当に地域振興になるのか。教育・福祉の充実で景気回復をねらったほうがいい。嵐山町は、国からの地域振興券の予算措置だけではとても足りず、町予算150万円の繰り入れです。

役場庁舎への新たな進路、本当に必要でしょうか

7年前の町長選は、役場建設、役場の位置が争点になりました。そのため、嵐山町駅西側の人達の利便性を考え、志賀堂沼から、今の庁舎への進路を建設することになりました。その第1期分土地購入費として1億6000万円を支出しました。完成までには10数億円は必要です。本当に必要な道路建設なのか、今疑問です。

財政が苦しい現状で、町の建設事業計画は、再評価する時期にきています。